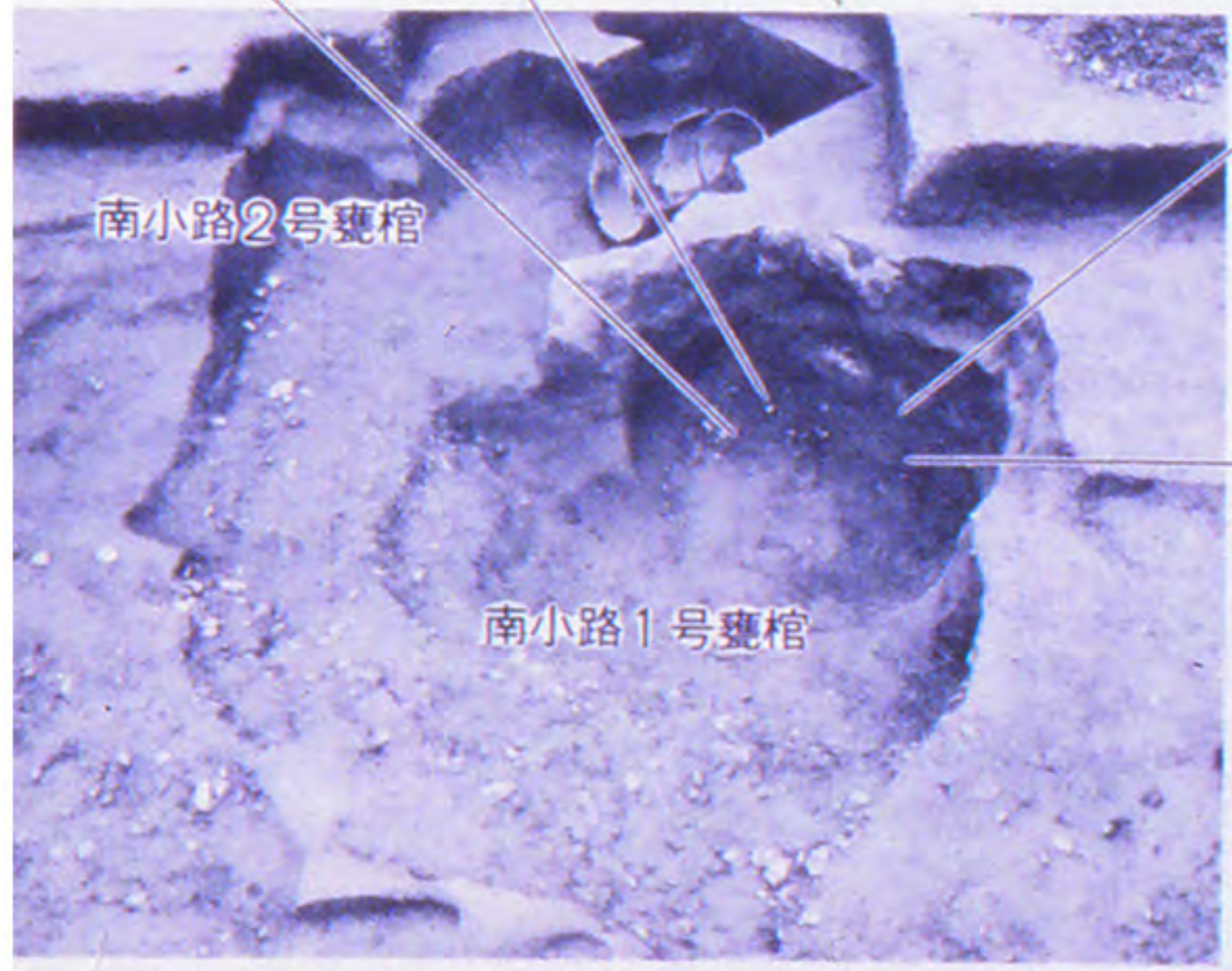
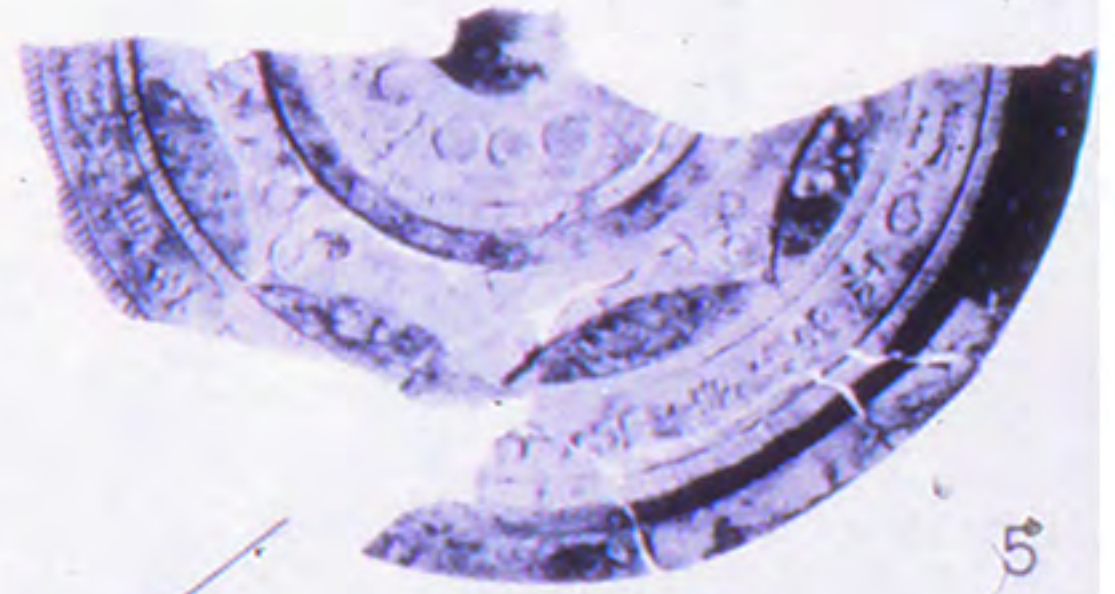


南小路1号甕棺の副葬品

- 1. 有柄式細形銅剣 (博多聖福寺蔵)
- 2. 中細銅矛 (文政5年発見)
- 3. 中細銅矛 (同)
- 4. 中細銅戈 (同)
- 5. 内行花文清白鏡 (1975年発見)
- 6. 内行花文清白鏡 (博多聖福寺蔵)











市指定史跡

1号墓棺が掘り出されたあと

発見された2号墓棺
全長約2.5m

みくもみなみしょうじおうぼ
三雲南小路王墓

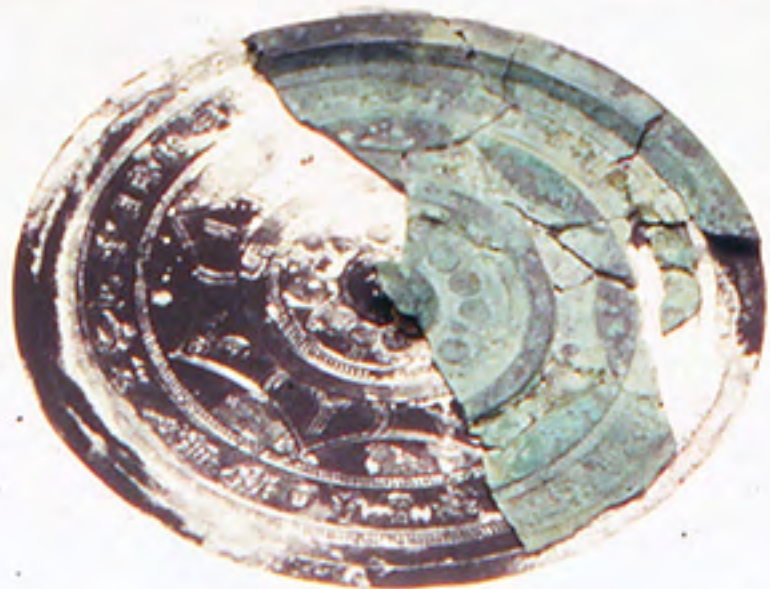
(前原市大字三雲字南小路)

弥生時代中期末(約2000年前)につくられた伊都国王墓。一辺30m、高さ1.5mを超える方形の墳丘に超大型の墓棺2基が埋葬されていました。弥生時代最大級の墳丘墓です。棺内から合わせて57面以上の銅鏡が出土しており、ひとつの墳墓から出土した銅鏡の枚数としては国内最多を誇ります。

写真は昭和50年の発掘調査時の2号墓棺出土状況。右の土壌は江戸時代に発見された1号墓棺の掘り出された跡です。



れんこもん じつこう めいぼよの
連弧文「日光」銘鏡
(三雲南小路王墓2号棺 10号鏡)



れんこもん じつこう めいぼよの
連弧文「清白」銘鏡
(三雲南小路王墓1号棺 5号鏡)



ガラスびいどろ輪玉
(三雲南小路王墓2号棺)



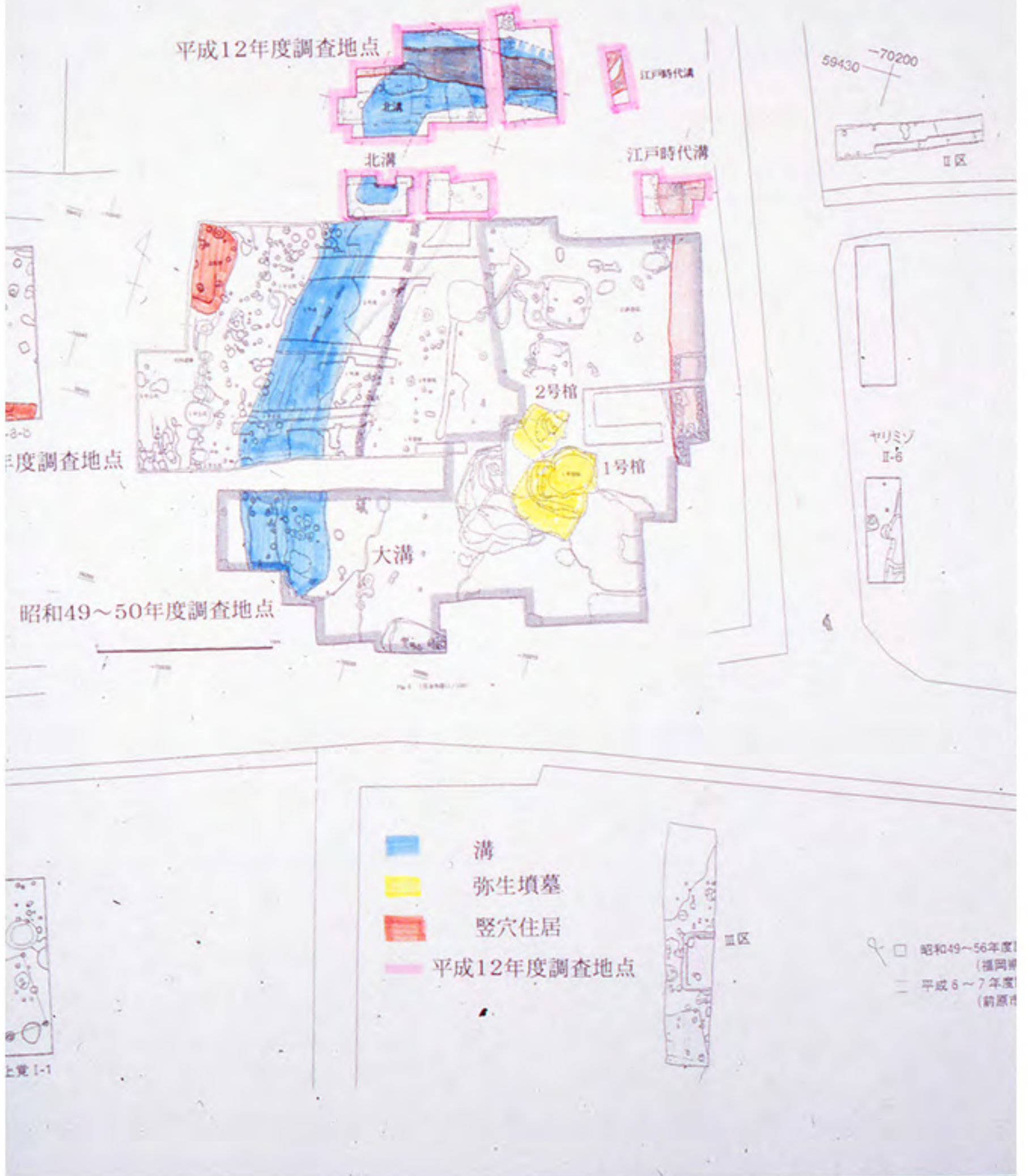
ガラスびいどろ鏡
(三雲南小路王墓1号棺)



びいどろじょうばかざりおびく
金銅四葉座飾金具
(三雲南小路王墓1号棺)



三雲南小路遺跡遺構配置図(1/12)

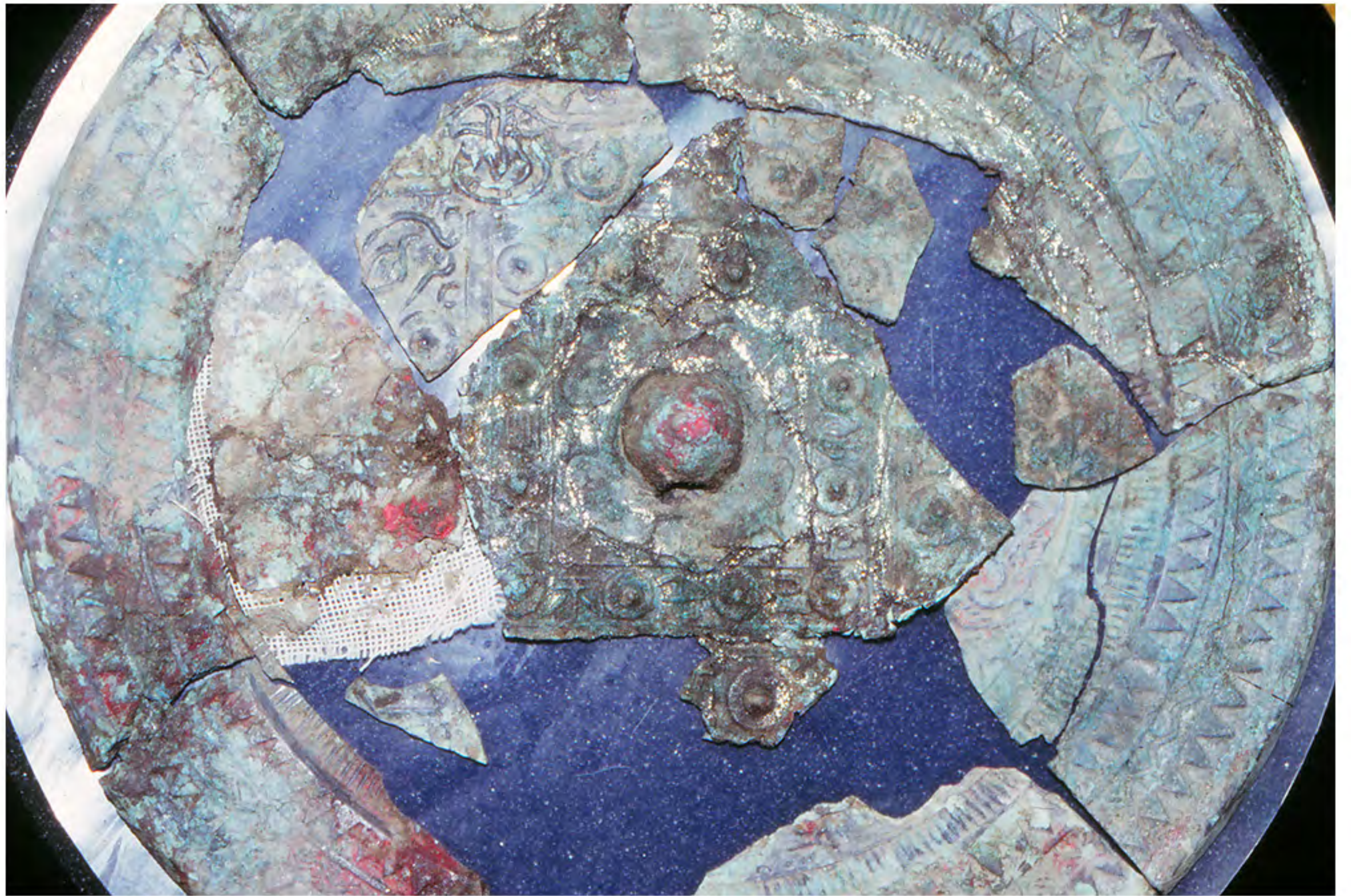


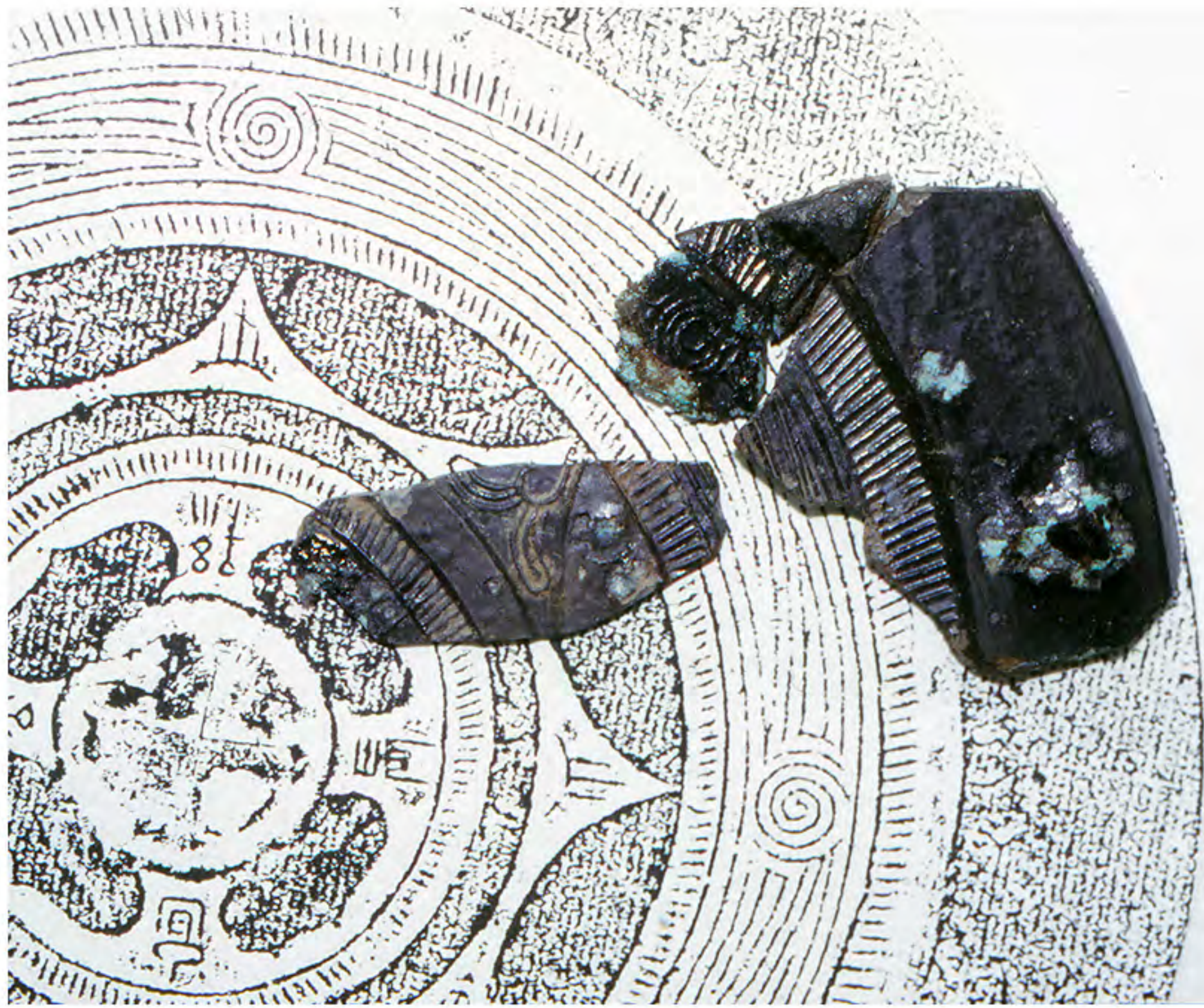




















環濠



環濠復元図

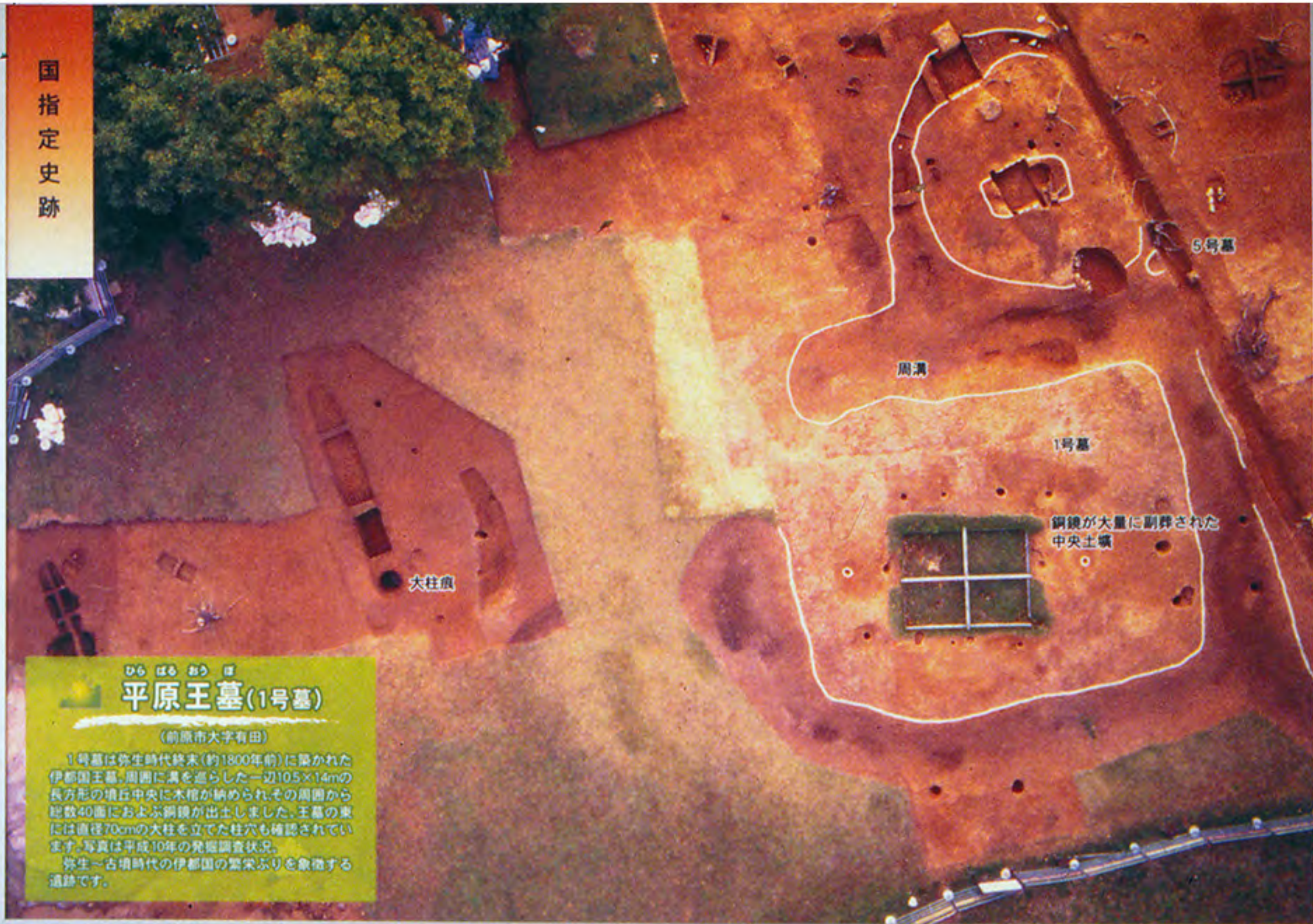
各地











ひらばらおうほ
平原王墓(1号墓)

(前原市大字有田)

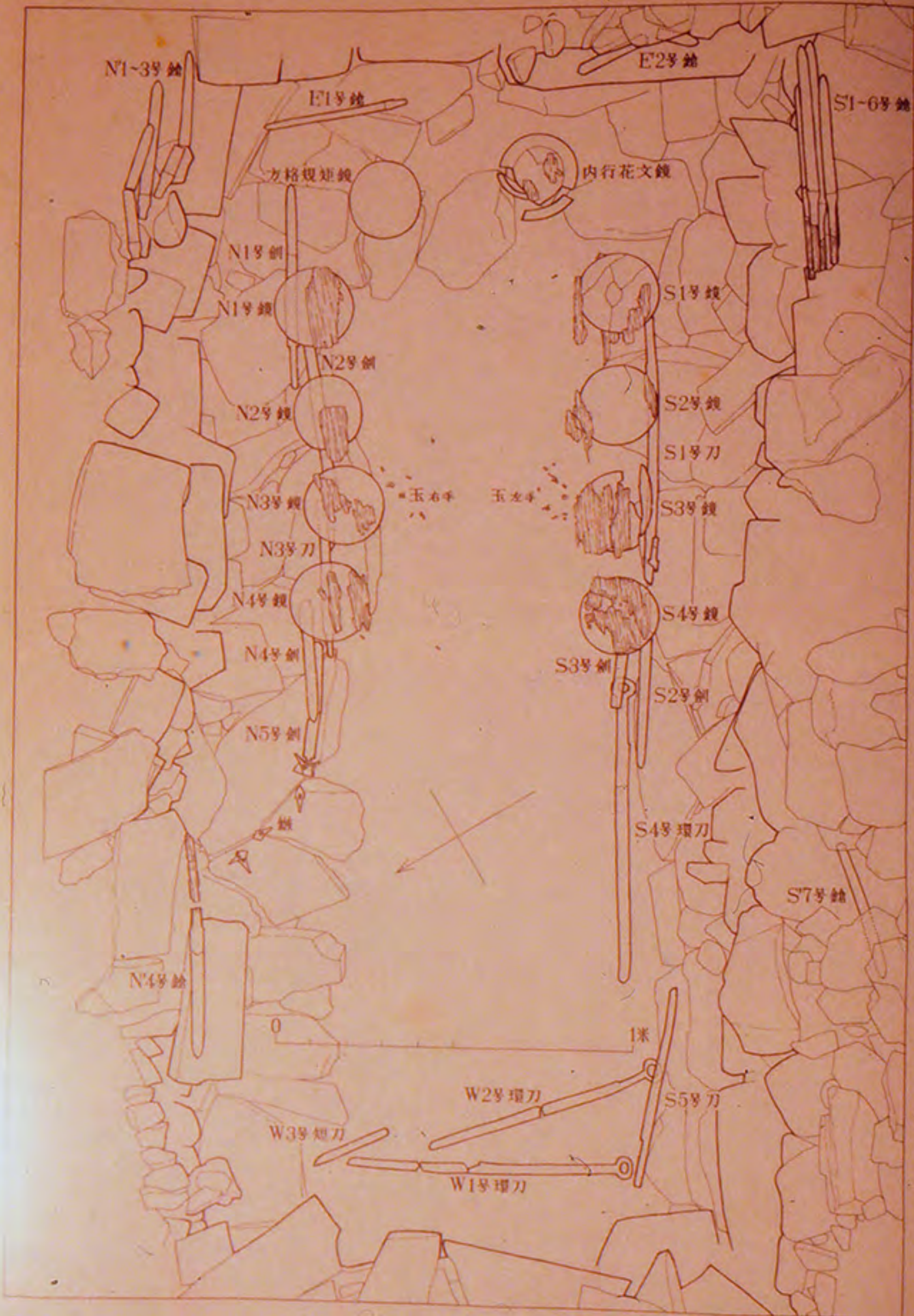
1号墓は弥生時代終末(約1800年前)に築かれた伊都国王墓。周囲に溝を巡らした一辺105×14mの長方形の墳丘中央に木棺が納められ、その周囲から総数40面におよぶ銅鏡が出土しました。王墓の東には直径70cmの大柱を立てた柱穴も確認されています。写真は平成10年の発掘調査状況。

弥生～古墳時代の伊都国の繁栄ぶりを象徴する遺跡です。



08 12 3





古子塚古墳堅穴式石室の内外における遺物配置圖



糸島地方の支石墓の分布 (縮尺 1/100,000)

1. 新町遺跡 2. 小田支石墓 3. 志登神社支石墓 4. 志登支石墓群 5. 井田用会支石墓
 6. 井田御子守支石墓 7. 三雲加賀石支石墓 8. 石ヶ崎支石墓 9. 長野宮前遺跡 10. 石崎曲り田遺跡

朝鮮半島
対馬
壱岐

玄界灘

泊

御床松原 ▲可也山

志登

引津湾

浦志

雷山川

瑞梅寺川

古代の入江

平原

三雲井原
(王都)









か や さん
可也山

み と こ ま つ ば ら い せ き
御床松原遺跡

し ん ま ち い せ き
新町遺跡

ひ き つ っ わ ん
引津湾



志摩町からも銅剣、銅戈

くめ
(志摩町 久米遺跡)

調査の結果

弥生時代の集団甕棺墓地が発見された久米遺跡。見つかった墓の数は全部で23基におよびました。

そのうち2基の棺からそれぞれ銅剣と碧玉製の管玉6個、銅戈が出土しました。

当時、青銅製の武器は戦いで使われるだけでなく、有力者の力を示す宝として墓におさめられました。

志摩半島から初の青銅武器


伊都国ではいままで青銅製の武器を納めた弥生時代の有力者の墓はイト地域からしか発見されなかったが、今回の発見で初めてシマ地域にも青銅製武器を携えた有力者がいたことが明らかになった。「シマ国があったのでは？」と今後の調査・研究を期待する声も聞かれます。





23号甕棺
(铜戈出土)

6号甕棺
(铜剑出土)



樂浪土器

樂浪土器



銅 鐵

新石器時代中-後期





主要弥生遺跡の分布状況



終

